

文化・芸術



「郷への道」

1994年ころ、紙本彩色
72.7cm×91.0cm（個人蔵）

奥村 稔（1930～2001年）

奥村稔さんは1930年、旧大間々町に生まれ、日本画院展、群馬県美術展覧会、日展、日春展などを中心に活動し、賞を重ねられました。長年この地で制作し、県展常任理事への推挙や桐生地区勤労者美術展審査員を務めるなど、地域の美術を支えられました。

奥村さんは各地へスケッチに出かけ、草一つとっても、膨大なスケッチの積み重ねの末に画面に根付かせています。本作は、94年日春展入選、外務省買い

《名画の扉》

企画展「The日本・画—大川美術館のコレクションを中心に」から

上げとなった作品と同名の作品。道沿いの木は葉を落とし、草は乾いた色に変わり、山がほど近い田舎の道の静けさを感じられます。画面は目の前に坂道が迫る大胆な構図で、わずかにわだちがついた道の向こうに広がるふるさとの景色への思いが押し寄せるようです。

本展では、最晩年の1点を含む3点の作品をご紹介します。

企画展第2部「桐生の日本画家たち」でご覧ください。

（大谷）